

## 愛川町立愛川中学校

研究テーマ：「つなぐ・つながる」

### 1 実践の目的

本校の学校課題の1つである生徒の「学力向上」を図るために、教師の授業改善、授業力向上を目指して校内研究に取り組んできた。学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」の実現に向けて掲げたのが「つなぐ・つながる」というテーマである。各教科の授業で生徒に習得させる知識や技能が、既得の知識・技能、他の教科の授業内容、さらにはさまざまな生活場面と「つながる」体験ができた時が「深い学び」の入り口となる。そのために5つの「つなぐ」ポイントを意識した授業づくりに向けて研究を進めてきた。

1. 生徒の知識がつながる授業
2. 授業の中で生徒同士がつながっていく授業
3. 授業と評価をつなげていく授業
4. 授業と家庭学習をつなげる授業
5. 学年・校種・教科間をつなげていく授業

### 2 実践の内容

年間3回の学期ごとに研究授業の機会を設け、その都度事前研究、提案授業・授業参観、事後研究を重ねてきた。

第1回…3年生（数学科、国語科）

第2回…2年生（理科、音楽科）

第3回…1年生（家庭科、社会科）

#### （1）事前研究

研究授業の担当者を中心に研究グループをつくり、教科を超えて共に指導案検討をしながら授業づくりをしていくことで研究

テーマに迫る授業を追究していった。

#### （2）提案授業・授業参観

各グループで授業を参観し、授業の進め方、生徒の学習活動の様子から自己の担当教科の授業に活かせることや工夫・改善の余地などを見つけていった。



#### （3）事後研究

##### ①生徒インタビュー

研究授業当日の授業後に、授業に参加した生徒数名を含めて授業を振り返る機会を設けた。生徒が授業の中で「わかったこと」「わからなかったこと」「できたこと」「できなかったこと」など正直な感想や意見をインタビュー形式で聞き取っていった。



## ②研究協議

研究授業に対して、生徒インタビューで得られた感想や意見も含めて振り返り、自分の授業にも取り入れたい工夫や反省点、改善点を出し合いながら「つなぐ・つながる」授業づくりを追究していった。集まった意見は掲示してグループを超えて共有できるようにした。



## ③全体会

5つの研究テーマのポイントに関わる授業づくりや評価の悩みを出し合い、講師としてお招きした横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校の先生方にも参加していただき、座談会形式と講演形式で協議をしていった。



## ④指導・講評

横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校の先生より、研究テーマのポイントの1つである「評価とつながる授業」について指導・講評をしていただいた。特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価と授業とのつながりについて、授業づくりの考え方や実践例を紹介していただきながら、本校の研究や授業実践について助言していただいた。



## 3 実践の成果

事前研究では、教科を超えてグループによる指導案検討を行いながら授業づくりをしていくことで、さまざまな視点や考えを持つことができた。当日の授業参観と事後研究では、授業での教師の指導と生徒の学習成果のつながりを実感することができた。研究協議では自己の授業にあてはめた工夫や改善点を考えるきっかけとすることができ、講師の先生の指導・講評・助言と合わせて授業力向上につながられた。

## 4 今後の展開

(1)「つなぐ・つながる」授業実践の継続  
各教科の中で「知識がつながる」ことや「生徒同士がつながる」授業実践を継続し、「指導と評価をつなげていく授業」の充実を図るため、教科の年間計画を立てる上で、評価計画も併せて考えていくこと。生徒自身に学習計画を意識させ、「主体的・対話的で深い学び」に生徒を導き、学力向上につなげていく。

(2)「指導と評価の一体化」と評価規準づくり

研究授業の機会だけでなく、教科を超えた授業参観や普段から授業づくりについての意見交換をさらに進めていくことで、本校の生徒の実態に即した評価規準を見つけ、作っていく。

生徒が、学んで得た知識や技能を自分なりの表現で活用することができ、「役に立った」という実感を味わわせ、そこから学ぶことの意欲、さらには学力向上につながられるよう研究を重ねていきたい。